

山口 茜さん (バドミントン)

応援レポート

全日本総合バドミントン選手権 2016

2016年11月30日(水)～12月4日(日) 代々木体育館

日本一を決める全日本総合選手権。女王奪還を目指す！

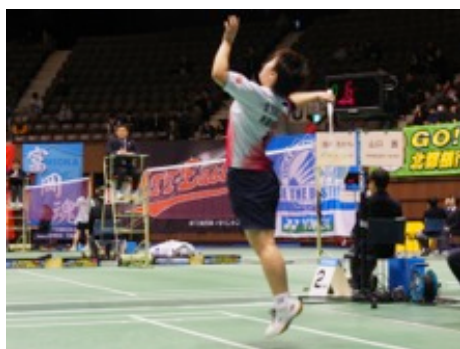
日本一を決める全日本総合バドミントン大会で、2014年高校2年生だった山口さんは優勝をさらい、天才少女の名を不動のものにした。去年は準決勝で敗れたが、狙うのはもちろん優勝だ。

シングルス・ダブルス 初戦 11月30日(水)

シングルス初戦は、1ゲームをやや苦戦。「初戦ということで空調や照明に慣れるまで調子がでなかった」らしい。2ゲームめは中盤になっ

て一気に詰め寄り21-12でゲームを奪取して2回戦へ。4時間半ほどおいて、今年は所属の再春館製薬所の選手とのペアでも登場。いつも

たんたんとしている山口さんとは一変。「ダブルスはとにかく楽しくやりたい」の言葉通り、ずっと笑顔でのプレーだったが、さすが実業団ペア。高校生ペアを寄せ付けることなく2回戦に進出した。



初戦では、危なげない勝ちっぷり

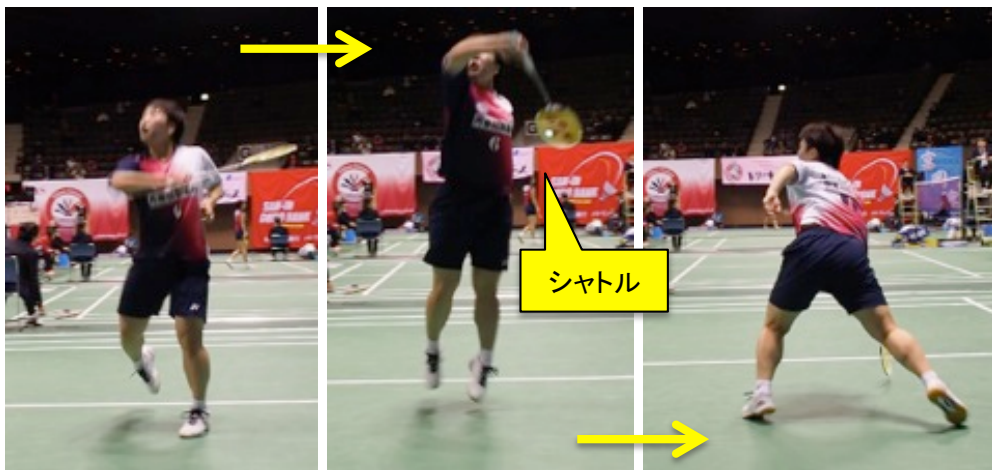


●バドミントンの基礎知識●

試合は3ゲームマッチで行われ、先に2ゲームを先取したほうが勝ち。ファーストゲーム(第1ゲーム)、セカンドゲーム(第2ゲーム)と進め、1対1になった場合は、ファイナルゲーム(第3ゲーム)が行われる。1ゲームは21点で、先に21点取ったほうが勝ち。ただし、20対20になった場合は、延長ゲームとなり、2点差がついた時点で終了。

シングルスは貫禄の2ゲーム連取。 準決勝へ進出！

間近で応援する機会を得た今回は、山口さんの速さがよく分かった。遠くのシャトルにも反応して拾い、そしてど迫力のスマッシュで攻めていく。2回戦は、点の取り方が自分なりにパーフェクトじゃなくて不満、な顔を見せることもあったが、2ゲームを連取して勝利。



相手の速いスマッシュを、身体を回転させて受けることで、倍速にして返す秘技。名前はまだない(と思う)

ダブルスは再春館製薬所同士の対決に。 実力派の先輩ペアに惜敗

ダブルス2回戦の相手は同じ再春館製薬所の先輩ペアとの対戦となった。先輩福万・與猶ペアは、金メダリストの高橋・松友ペアへの対抗一番手と言われている実

力派。そのペアに山口さんペアはなんと1ゲームを先取、どうやら先輩を本気にさせた模様。最後まで接戦の好ゲームとなったが、勝利したのは先輩ペアだった。

笑顔で楽しそうにプレーしていた山口ペア。惜しい結果だったが、応援していても山口さんの笑顔につられてハッピーな気持ちになれたゲームだった。



笑顔だけど本格的に強いふたり



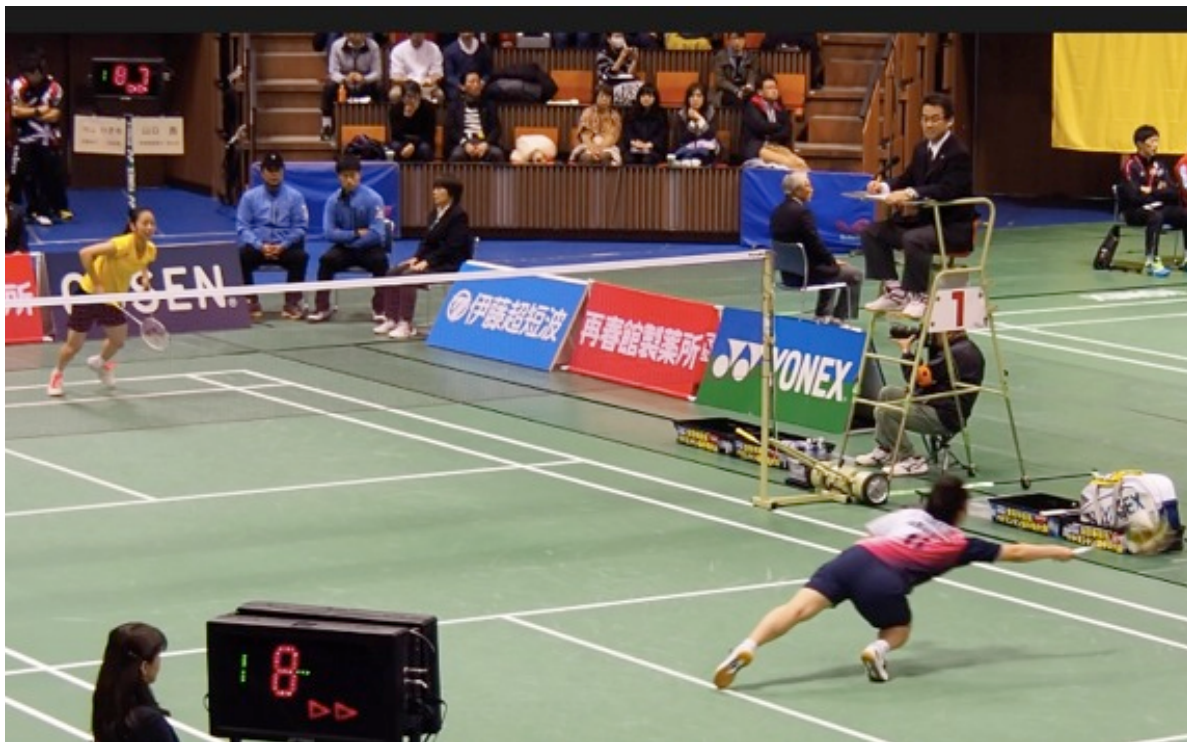
「負けを覚悟して開き直った」2ゲームめを踏ん張って ファイナルゲームを奪取！

準々決勝の相手は昨年苦戦した川上選手(山口さんが勝利)。立ち上がりは山口選手が7-3まで差を広げたが、そのあとは川上選手のペースに巻き込まれる展開に。山口さんが調子上げるのはいつ？と見守っていたがそのまま1ゲームを取られて

しまった。2ゲームめも大接戦、このままだとストレート負けか!?という局面へ。ジュースまで迫った山口さん。擦り傷の治療を受けてひと呼吸置いた後、なんとか2ゲームめを22-20で取ることができた。

「相手のスピードに巻き込

まれないようにしたいと思ったが焦ってしまった」「負けを意識して開き直った」山口さんは、「3ゲームめに相手のショットが単調になった」のを見逃さず、点差を重ねてファイナルゲームを奪取、勝利にこぎ着けた。応援するこちらにも緊張の連続だった！



川上選手とは同学年。お互いよく知る相手なだけに、ギリギリのショットのみが決まっているように感じる。

左下は山口さんがヒザの擦り傷に絆創膏を貼ってもらう場面



シングルス 準決勝 12月3日(土)

実力を発揮して2-0のストレート勝ち。 決勝へ進出！

準決勝での山口さんは、スタートから連続8点をゲット。中盤以降は三谷選手の追い上げもあったが21-17で1ゲームを先取した。

2ゲームめはそこまで点差

が開かなかったが、落ち着いた試合運びに安心して応援。途中、14点で追いつかれたとき、山口さんショットの「アウト」の審判に山口さんが判定を聞き直す場面が

あった。審判の判定は変わらず14-14と並ばれてしまったが、山口さんの勢いが加速して21-16で2ゲームめも獲った。山口さん、決勝進出おめでとうございます！



山口さんのコートには取材カメラがぎっしり

(相手に14点めが入ったとき)『審判に「自分のシャトルが入ってませんか」と聞いたら「ちょっと入ってました」と言われたのにボードでは入ってなかったことに。ハテナ?と思いました(笑)』



シングルス 決勝 12月4日(日)

2年ぶりの優勝ならず、準優勝。 「一から頑張ります」

決勝戦の相手はロンドン五輪代表の佐藤冴香(ヨネックス)選手。昨年準決勝で敗れた相手でもある。

今回の結果は18-21

16-21。世界ランキングでは山口さんが上だが、今大会ではまたしても一歩及ばなかった。

「社会人になって相手に

向かってこられることも多くなってきたと感じる」『今日の試合は精一杯やったつもりだが、相手が強くていつもなら決まるショットも取られ、1枚も2枚も上手だった。また一から頑張っていきたい。』(日本バドミントン協会HPより抜粋)

こういった経験を乗り越えて、強くなってきた山口さん。これからも応援しています！

「自分もバドミントンをやってみたい」と思ってもらえるような試合をしたい」と言っていた山口さん。決勝は会場まで応援にいけなくて残念！準優勝おめでとうございます！
(写真は2回戦のもの)



結果

女子ダブルス

